

苗木移植季節試驗

白澤保美
小野郁藏

苗木移植ノ季節ハ從來ノ經驗上各樹種共ニ三四月ヲ以テ最良ノ時季ト爲シ各地方ニ於テ專ラ此時季ヲ撰メリト雖モ人工造林ノ増加ニ伴フテ苗木需要愈々多量トナリ苗圃經營ノ任ニ當ルモノハ短日月ノ間ニ於テ多數ノ苗木ノ移植ヲ施行セサル可カラサルニ至リ勞力ノ供給其他ノ手配等ニ於テ意ノ如クナラサルトコロアリ爲メニ其年度ニ於ケル豫定ノ事業ヲ翌年度ニ讓ラサルヲ得サル場合アリテ造林ノ經營上ニ不便ヲ感スルコト甚タ多シ本試驗ハ目下本邦ノ造林上多ク使用セラルル樹種ニ就テ其最モ適當ナル移植季節並ニ他ノ季節ニ於ケル移植ノ適否ヲ試驗的ニ決定セント欲スルニアリ

試驗ノ方法

試驗ニ供シタル樹種ハ「クロマツ」「カラマツ」「ヒノキ」「スギ」「クス」及「シラカシ」ノ六種ニシテ各種一定ノ區劃内ニ栽培セラレタル大概同形ノ發育ヲ成セル二年生苗木ヲ毎月上中及下旬即チ五日十五日及二十五日ニ各三十本宛ヲ掘採リ直ニ之レヲ各種同一ノ方法ヲ以テ苗圃ニ六寸平方一本宛ノ割合ニ移植シ毎年四月ニ始マリテ翌年三月ニ終リ其各月ニ於ケル枯積苗木ノ本數ヲ精細ニ調査シタルモノナリ是故ニ滿一年ノ終ニ於テハ已ニ此試驗ノ目的ヲ達スルコトヲ得可シト雖モ兩期雨量寒暑其他天候ノ模様ハ毎年必スシモ一樣ナラサルヲ以テ其平均ヲ得セシメンカ爲同一方法ヲ以テ同一試驗ヲ三年間反覆施行セリ

今其各年度ニ於ケル成績ヲ舉クレハ次表ノ如シ

明治三十一年度成績表

(本年度ニ限リ「スギ」「ヒノキ」及「カラ」マツハ三年生苗木ヲ使用セリ)

移植年月	移植本數ニ對スル枯死本數				(一ハ全數生育ノモノ)			
	クロマツ	カラマツ	ヒノキ	スギ	ク	ス	シラカシ	
三十一年四月	三	一一	一	六	一	四〇		
五月	三	一九	七	二	五九	八二		
六月	三	五三	七	一	四三	七八		
七月	二	一〇〇	八三	八二	五三	九九		
八月	二	九七	一三	一八	三四	七三		
九月	三	六	一	一三	四〇	三二		
十月	二	一七	二	二一	七八	五六		
十一月	九	六	四	八	四八	四七		
十二月	一	三	二	五三	二七	四二		
三十一年三月	二	六	二	七	二九	一二		

明治三十二年度成績表

移植年月	移植本數百本ニ對スル枯死本數				(一ハ全數生育ノモノ)			
	クロマツ	カラマツ	ヒノキ	スギ	ク	ス	シラカシ	
三十二年四月	一	一二	一	四	三八	二		
五月	一	三七	三	三三	六三	三九		
六月	一	七三	三	二七	四〇	一		
三十二年七月	一	九三	九	八	五五	三		

明治三十三年成績表

三 十 三 年	三 月	二 月	一 月	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月	八 月
				三	三	一	一	
			五	三	三	三	三八	八九
			三	一	四	一	二	五二
			二	二	八	二		三六
	二四	六二	七四	七四	八八	七七	一〇〇	九一
	二四	五二	七三	六〇	六二	四八	六八	二七

移 植 年 月	三十三 年四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	三十 四年一月	二月	三月
クロマツ	一	一	一	一	二	一	二	一	一	一	一	三
カラマツ	二	四二	五〇	五三	九三	二四	七	七	四	六	七	七
ヒノキ	三	九	三	三四	七一	九	二	三	三	三	三	三
スギ	六	三	一	三九	三	三	二	二	二	二	二	二
クス	一	一四	三一	三三	二〇	七〇	七三	三七	一七	一〇	一二	一二
シラカシ	二	一六	四九	五三	七一	一一	三〇	八三	六六	四四	一一	一二

以上三ヶ年試験ノ成績ヲ通覽スルニ三十二年及三十三年度ノ兩年ニ在テハ各樹種ヲ通シテ八月ニ於

テ其枯損數最多ナルモ三十一年度ニ於テハ七月ニ於テ最多ナリ是レ同年七月降雨量ノ殊ニ甚タ少ナカリシ結果ニシテ中央氣象臺ノ調査ニ據テ之レヲ證明スルコトヲ得可シ(東京報告ニ據ル時ハ三十一
年七月ハ二一
九ミシテ三十二
年八月ニ達セリ)又三十一年度各月ニ於テ「スギ」カシ及三十二年度各月ニ於テ「クス」ノ枯損他ノ兩年度ニ比シテ多キハ同年使用シタル苗木カ殊ニ不良ナリシ爲メニシテ三十二年五月カシノ枯損其前後兩月ニ比シテ比較的多キモ亦此原因ニ基ケリ此他斯ノ如キ例外ノ場合多少無キニシモアラス次ニ前三年間試驗平均成績ヲ示ス次表ノ如シ

苗木移植試驗三ヶ年間平均成績表

移植年月	移植本數百本ニ對スル枯死本數		(ハ全數生育セルモノ)	
	クロマツ	カラマツ	ヒノキ	スギ
一	一	五	四	九
二	一	二	一	二
三	一	八	一	一
四	一	三	四	一
五	一	五	四	一
六	一	八	四	一
七	一	九	二	三
八	一	三	一	四
九	二	九	一	四
十	四	五	二	五
十一	四	三	三	九
十二	一	一	一	一
十三	一	一	一	一
十四	一	一	一	一
十五	一	一	一	一
十六	一	一	一	一
十七	一	一	一	一
十八	一	一	一	一
十九	一	一	一	一
二十	一	一	一	一

試驗ノ成績ノ概括

本試験ニ供シタル樹種ハ森林植物分類上常綠闊葉樹常綠針葉樹及落葉樹ノ三類ニ屬スルモノニシテ該樹種ヲ以テ其各類ノ代表者トナスコトヲ得スト雖モ各樹種ニ對スル試験ノ成績自カラ其類毎ニ略相等シク又類ヲ異ニスル時ハ各者相異ルヲ以テ今其類別ニ依リテ之レヲ論スルトキハ常綠闊葉樹ハ四時ヲ通シテ移植ニ甚タ困難ニシテ落葉樹ハ移植時季ニ大ニ好惡アリ換言セハ適當ノ時季ニ移植ヲ爲ス時ハ其成績甚タ良好ナルモ之レニ反スル時ハ其結果著シク不良ナリ常綠針葉樹ハ只暑中ノ乾燥時期ノミヲ除クノ外各月共ニ殆ント移植ニ適シ殊ニ「クロマツ」(三十一年度第一回試験成績)ハ四季ヲ通シテ其成績良好ナリ概シテ時季ニ對シテ好惡アル樹種ハ其成績良否共ニ兩極端ニ亘ルト雖モ之レニ反シテ特ニ好惡ナキ種類例セハ四季共ニ其成績ノ不良ナルカ若ハ良好ナルカノ樹種ハ季節ニ關スル影響顯著ナラスト稱スルコトヲ得可シ又是等各種ニ就テ比較スル時ハ「クス」ハ移植ノ成績最不良ニシテ「シラカシ」之レニ次

キ「カラマツ」「スギ」「ヒノキ」「マツ」之レニ次ク更ニ各樹ニ對スル成績ヲ摘記セハ左ノ如シ

「クロマツ」ハ四季ヲ通シテ移植ニ適セサルノ時ナク只十一月及ヒ十二月ニ於テ稍枯損ノ多キノミ

「カラマツ」ハ十月ヨリ翌年四月ニ至ルノ間即其針葉ノ黃色ニ變セントスルノ時期ヨリ其新葉ノ將ニ發生セントスルノ時期ニ至ル間ニ移植ニ適シ殊ニ二月及ヒ三月ヲ以テ好適時トナス五月ヨリ漸次其枯損數ヲ増加シ八月ニ於テ最大トナリ之レヨリ減少ス故ニ此五月間ハ全ク移植ニ不適當ナリト稱スルコトヲ得可シ

「ヒノキ」ハ九月ヨリ翌年六月ニ至ル間ハ殆ント各月共ニ移植ニ適スルモ二月ヨリ四月ニ亘リテ最良時期トナス七月及八月ノ兩月ハ全然適當セス

「スギ」ハ其成績稍ヒノキノ等シ只其枯損本數彼ニ比シテ較多キノミ

秋植ノ季節ニ就テハ諸説アリト雖モ本成績ニ據ル時ハ「スギ」「ヒノキ」共ニ九月ヲ最適當トナスカ如シ「クス」ハ二月ヨリ四月ニ至ルノ間ニ於テ移植ノ成績最良好ニシテ八月以後十二月マデハ不適當ナリ

「シラカシ」モ亦クスニ等シク二三四月ノ三ヶ月ヲ以テ移植ノ好時期ト爲ス其他ノ時期ニ在テハ成績ノ不良ノ度毎月殆ント相等シ

本成績ニ據リ各樹種移植季節ノ適否ヲ略判定スルコトヲ得ン然レトモ此種ノ試験ハ其回数ヲ多クスルニ從テ益精確ニ近ツクモノニシテ又使用苗木ノ年齢ニ依テ其成績ニ於テモ多少ノ差違アル可キヲ認ムルヲ以テ是等ニ關シテ將來尙ホ試験ヲ繼續セント欲ス而シテ此他ノ樹種ニ就テハ其試験中ニ屬スルモノアルヲ以テ是等ハ次回ニ於テ報告ス可シ

又此試験ハ元來地方的ナルヲ以テ東京附近及ヒ東京ノ氣候ト稍類似セル氣候ノ地方ニ在テハ直ニ此成績ヲ適用スルコトヲ得可シト雖モ雨期其他天候ノ全然異リタル地方ニ於テハ然ルヲ得サルヲ以テ各地方ニ於テ自カラ此種ノ試験ヲ施行センコトハ其地方ノ造林上甚タ必要ナルヲ感スルナリ